

# 校長室だより



## 5月

2025(令和7)年5月1日  
大阪市立天王寺小学校  
校長 藤原 和彦

### 「いじめ」と「いのち」を考える

新学年が始まって、間もなく1か月になります。子どもたちは、そろそろ新しいクラスに慣れたでしょうか。1年生は学校に来ることそのものが大きな環境の変化となり、疲れもたまつてくるころだと思います。今週末の大型連休をどう過ごすかで5月のスタートも変わってくるでしょう。休む時はしっかり休むことで次に進むエネルギーが溜まります。そして、気持ちを新たにして、来週も元気に登校してほしいと思います。

先月の続きになりますが、先日、始業式の講話から、2年生以上の子どもたちに「やりたいこと」と「やらなければならないこと」を考えて書いてもらいました。「やらなければならないこと」には、勉強や生活習慣に関する事を書く子が圧倒的に多かったように思います。みんな、よくわかっているんですね。一方、「やりたいこと」には、「たくさん友だちを作りたい」など、新学期ならではのことが多く並んでいました。また、「下の学年の子にやさしくしたい」とか「委員会活動を頑張りたい」などの前向きな「やりたいこと」を書いてくれる子もたくさんいました。しかし、中には「やりたいこと」というよりは「やってほしいこと」を書いているような子も見られました。以前から言っているように、学校において、子どもはお客様ではありません。誰かにしてもらって満足するのではなく、自らが主体的に行動してこそ学校へ来る意味があると思います。そうした理念が、まだまだ子どもたちに届いていない所もあるなあと思いましたが、まずは、みんなのやりたいことができるようになって、より良い学校生活になることを願いながら返事を書きました。

さて、前任校でもそうだったのですが、私は、毎年5月の校長室だよりは「いじめ」について書いています。今年も大阪市の小中学校では、5月12日(月)が「いじめについて考える日」です。この日は、児童朝会での講話をはじめ、各学級で道徳や学級活動の時間を使って、いじめや仲間づくりについて考えます。また、この「いじめについて考える日」は、令和5年から、いじめだけでなく「いのち」についても考える日になりました。これは、今もいじめによって命を絶つ子どもがいることや、お互いが、支えあって生きていく社会において、命の尊さは何よりも大切にされなければならないと考えることが背景にあるからです。

「命の大切さ」については、学校のあらゆる場面で指導しています。道徳のように直接扱う場合もあれば、生活科や理科の時間に生き物について学習する中で、生命について考える場面もありますし、5年生では、ヒトの誕生そのものを扱います。また、社会科では、警察や消防など人命を守る仕事を



調べたり、戦争という最も命がないがしろにする愚行についても学んだりします。さらに、国語科の学習でも様々な物語教材で、命を扱いながら学習することができます。ですから、子どもたちの多くは、「命は大切」「命は尊い」ということを知識として十分理解していると思います。

では、「命は<sup>はかな</sup>儂<sup>とうと</sup>い」ということについてはどうでしょうか。「儂<sup>あわ</sup>い」とは淡くて消えやすかったり、不確かなものだったりすることです。生きるエネルギーに満ち溢<sup>あふ</sup>れている子どもたちにしてみれば、人の命が儂<sup>おび</sup>いなんて、想像しづらいかも知れません。しかし、世界に目を向けてみれば、今も毎日、自分の家にミサイルが飛んでくるかもしれないと思える子どもたちが何万人もいるのです。もし自分がそこにいたらと思うだけで、きっと今生きていることがものすごくありがたいことに思えるのではないかでしょうか。そう考えると、命を大切にするということは、ちょっと想像力を働かせたり、自分以外のところに目を向けたりすることで見えてくるような気がします。それは、「いじめ」についても同じことです。子どもたちは、そのためにいろいろなことを学校で学んでいるのです。

最近は、自分と意見が合わない人を、排除したり、攻撃したりする不寛容<sup>ふかんよう</sup>な社会になっているとよく言われます。多様な価値観<sup>かじゅうかん</sup>と言しながらも自分の価値観にこだわり、他者を切り捨ててしまふ自分を守れない子どもを作らないよう、我々大人こそが、しっかりと想像力を働かせていかなければいけないと思っています。

## 今年は100周年です

昨年度、天王寺小学校は創立150周年でしたが、今年度は、天王寺区が区制100周年を迎えていました。先日、その記念式典が大阪国際交流センターで行われ、お招きいただいたので行つきました。

当日、天王寺区住みます芸人のミルクボーイさんは、ビデオメッセージの参加でちょっと残念でしたが、中学生の町紹介や、Osaka Shion Wind Orchestra のコンサートなどがあって、とても楽しい内容でした。その中でびっくりしたのが、式典の中であった「言葉でつなぐ『天王寺』への想いコンクール」の表彰式です。司会の方が、「335点の応募作品の中から21作品が選ばれました。」と言って、表彰者が壇上に登場したのですが、よく見ると大人に混じって天王寺小学校の子どもたちが5人もいました。壇上でちょっぴり緊張しながらも区長さんから表彰状をいただいている姿は、とても素敵でした。(学校でも再度表彰しました。)

天王寺区制100周年記念の行事は、今後も続くそうです。昨年度は、本校の記念事業にもご支援いただいたお返しに、学校としてもできることは協力していきたいと思います。そして、子どもたちには、学校とともに、自分たちの住む町も大切にしてほしいと願っています。

